

平成19年度・平成20年度
～「実践型人材養成システム」普及のための地域モデル事業
実施団体好事例集～

【⑩四国タオル工業組合(タオル製造)】

○モデル事業導入にあたって

国内シェア6割を占める今治タオル地域であるが、2007年問題に象徴される「ものづくり」をささえる技術者の高齢化や引退が進み技能継承の観点で危機感が一段と強まり、大きな問題となっている。

四国タオル工業組合としては、こうした状況に対応するため平成19年度に若者の人材確保と企業の即戦力となる中核人材を育成することが可能となる実践型人材養成システムのモデル事業に教育訓練機関や行政等とも連携し取り組むこととした。

○企業のメリット

- ・若年者の人材確保。特に地場産業は若年者がほとんど求職しないため、当該システムの活用により興味をもってもらえる。
- ・体系的かつ実践的な人材教育プログラムの整備。
- ・技能継承の促進

○モデル事業実施（訓練実施）における好事例

- ・訓練生に連帯感ができ、お互いに情報交換をするようになり学習意欲の向上にもつながった
- ・今までの社員教育は現場で全て教えないといけなかったが、教育訓練機関において、Off-JTを前もって受講しているのでOJTの理解度が早い。また、訓練生も分からないことは、教育訓練機関の講師の方に聞くことも出来るし、訓練時間が足りなく、まだ十分理解出来ていないカリキュラムは本人がもう少しやってみよう前向きに取り組んでいた。
- ・失敗しやすい部分をマニュアルにまとめ、ミスを繰り返さないよう努力するようになった。

〈その他、訓練実施企業の声〉

- ・この訓練制度は、雇用してからいつ辞めるか分からないという方ではなく、最初から本人が自覚して入職してくるので、定着は大いに期待出来る。今

後も是非続けて欲しい。

- ・タオル業界には若い人があまり入ってくれないので、新規学卒を中心とする若い方を対象としたこの制度は良いと思う。
- ・Off-JTでタオル全般の知識を教えてもらえるのが良い。

〈その他、訓練生の声〉

- ・会社では教えてもらえないタオルの知識が学べるのでうれしい。解らないことは技術専門校で確認出来るので助かっている。
- ・この訓練に参加させていただいて、とても感謝している。知識を得た上で仕事を進めたり現場に行ったりするので理解度が上がる。この制度は是非今後も続けていただきたい。そのためには1期生の我々が頑張らないといけないし、早くこの会社の戦力になれるよう、努力します。
- ・現場では学べないタオルを作る全ての工程を学べるので、大変勉強になる。
- ・改めて、ものづくりの楽しさを知ることができ、モチベーションも高い。

○これから取り組む企業の方へ

今治タオル産地では平成18年度から市、商工会議所等と連携して「今治タオル」のブランド構築を目指すプロジェクトを立ち上げ、その中でもものづくり技術の継承、若手技術者の育成強化を主な役割とする「タオルマイスター」を選任し人材確保・育成に力を入れています。

実践型人材養成システムを実施するうえで浮かび上がる課題や問題点を今後明らかにしつつ、検証・改善を図り、さらに当該訓練が全国の中小企業へ広く普及し、それぞれの分野で技術者の人材確保並びに育成強化につながれば幸いです。